

新型コロナウイルスの世界的な流行で外出自粛が求められた結果、DVの被害や相談数の増加という負の面が生じてしまうことにもなりました。

UN Women（国連女性機関）では、このことに関していち早く報告書を取りまとめ、全世界に警鐘を鳴らしています。今回の新型コロナウイルスの流行で、改めてDVについて考えた、あるいは初めてDVというものを知ったという方もいるかもしれません。世界の状況とともに、あなたの身近な問題としても考えてみませんか。

女性と女兒に対する暴力： 影のパンデミック(世界的な大流行)

過去12か月で、

2.43億人



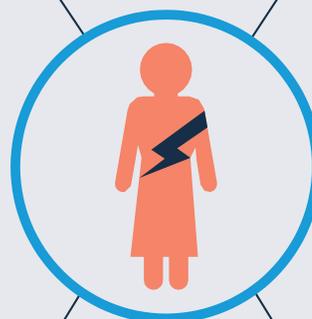
の世界中の女性と女の子（15歳から49歳）が身近なパートナーによる性的・身体的暴力の対象となっていました。

COVID-19の流行が続く中、女性の幸福度、性と生殖に関する健康、メンタルヘルス、社会と経済の復興に参加し主導する能力などへの様々な影響と共に、暴力を受ける人数も増えるでしょう。

感染と都市封鎖を報告する国が増えると共に、ドメスティックバイオレンス（DV）ヘルプラインやシェルターに助けを求める声が増えています。

フランスにおけるDVの通報はロックダウン(都市封鎖)状態が始まってから、**30%**増加しています。

アルゼンチンにおけるDVヘルプラインへの相談は、ロックダウン(都市封鎖)状態が始まってから**25%**増加しています。



キプロスとシンガポールにおけるヘルプラインへの相談はそれぞれ**30%**、**33%**増加しています。

カナダ、ドイツ、スペイン、イギリス、アメリカの政府機関、女性団体、市民社会関係者はDV報告の増加と緊急保護施設(シェルター)設置を増やす必要性について注意喚起しています。

こちらの表は UN Women（国連女性機関）日本事務所のご好意で転載させていただくことができました。

また、この問題は海の向こうの遠い国の出来事ではありません。もしかしたらあなたの身近な女性も苦しんでいるかもしれません。ぜひ国連ウィメン日本協会のホームページもご覧ください。一人でも多くの方のご理解、ご支援が、悩み苦しむ女性の健やかな暮らしにつながると考えます。国連ウィメン日本協会 <https://www.unwomen-nc.jp/>

安全・健康・経済的な不安からくる緊張と負担が、家等に閉じ込められる状況により助長されます。そして暴力をふるうパートナーと向き合う女性たちの孤立を増やし、必要な助けから遠ざけます。

2017年、殺害された
87,000人の女性の加害者は、彼女の家族か身近なパートナーでした。

暴力を経験した女性が助けを求めたり、告発するのは
40%以下にすぎず、多くのDVや他の形の暴力が報告されない中、データの収集は困難でした。

女性に対する暴力の世界的な経済的コストは約 **1.5兆米ドル**だと推定されています。女性に対する暴力が増加する中、このコストはさらに増えるばかりでありパンデミックが終わった後も続きます。

医療崩壊が間近に迫る中、DVシェルターも受け入れ態勢に限界がきており、さらなるCOVID-19対応のために提供するサービスにも影響がでています。



対処方法としては、以下が求められます：



過去の危機において草の根の団体、女性団体、市民社会は防止と対策において重要な役割を果たしました。これらの**最前線で働く団体を、資金提供を含め長期間にわたって支援**していかなければなりません。



ヘルプライン、心理社会的サポート、オンライン相談を増やし、ショートメッセージサービスなど**テクノロジーを使ったオンラインやSNSによる社会的な支援を強化**すべきです。



電話やインターネットにアクセスのない女性たちに手を差し伸べなくてはなりません。女性と女の子への暴力事案が優先的に扱われ、**加害者が不処罰とならないよう警察や司法サービスを動員**しなければなりません。

